様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月１５日現在

研究種目：　基盤研究（Ａ）
研究期間：2005～2008
課題番号：　17202006
研究課題名（和文）　室町期成立番外謡本の網羅的調査・系統分類と『謡曲大成』の作成
研究課題名（英文）　A comprehensive survey and classification of all Muromachi-era text of Noh plays in preparation for the publication of Yokyoku Taisei

研究代表者
竹本　幹夫（TAKEMOTO, Mikio）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：90138181

研究成果の概要：
番外曲を中心に、カ行までの 170 番 1020 本ほどを翻刻した。また代表者・分担者・連携研究者はそれぞれ別記の論考を発表した。研究成果として発表した謡本以外にも、全国の謡本資料を博捜して、『国書総目録』未収の謡本を多数発見、デジタル化した。それらはハードディスクに複写して連携研究者以上の研究参加者がそれぞれ保管し、今後の作業のために役立てる。
また竹本が監修し、分担者等の内、三宅晶子・山中玲子が中心となり、落合博志・大谷節子が補佐して編集実務に当たる形で、『現代謡曲集成』全 6 巻を企画し、勉誠出版より刊行の予定である。これについてはすでに第１巻が本年度中に刊行の予定で、数年以内に全巻刊行の後、別途全謡曲本文を網羅した『謡曲大成』を刊行の予定である。また分担者の内、大谷節子が、別記の著書『世阿弥の中世』により、2008 年度角川源義賞を受賞したことも申し添えたい。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2006 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2007 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2008 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
総　計	18,500,000	5,550,000	24,050,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学（２９０１）
キーワード：謡本・番外曲・廃曲・能楽・謡曲

１．研究開始当初の背景

明治以後、現代に至るまでの間に、『謡曲集』の名で、能テキストの校訂が何度も行われたが、そこに収録されるのは現行曲２５０曲の範囲内にある作品ばかりであった。そして多くの場合は、そのうちの１００曲程度しか収録されることがない。したがっていつも同じような人気曲ばかりが紹介されることになり、研究も勢いそれらを中心に展開せざるをえないというのが、従来の能楽研究の大きな限界であった。それ以外のいわゆる番外曲は、いかに歴史的な意義が高かろうが、ほとんど校訂されることがなかった。またこれら番外曲については、版本を底本に用いた翻刻が数種存在するが、いずれも誤校が少なからず、底本自体にも資料的な欠陥が認められるのである。これでは能の全体像を俯瞰することは不可能である。もちろん現代の能楽研究においては、こうした限界を克服すべく、個々の研究者は、それぞれ作品ごとに伝本研究を行った上で、作品を扱うのが常識である。しかしながらこうした方法を採りうる研究者の数は限られており、伝本を網羅した先進的な研究がある一方で、例えば他分野の研究者が番外曲を扱う場合などには、戦前刊行の遺漏の多い校訂本に頼らざるを得ないのが通例である。このことが能楽研究の全体的レベルの向上に、大きな障害となっていたのは、疑うべくもない。そのような背景から本研究を計画した。

２．研究の目的

本研究は、現存する能のテキスト（能本・謡本）を網羅的に調査・収集し、その善良な本文を選んで、『謡曲大成』として翻刻することを目的とする。能のテキストは、世阿弥時代以来現代に至るまでに、２４００曲以上が現存する。これらのうち、実際に作品研究の対象となるものは、室町時代に制作されたことが明らかな、５５０曲前後の能である。うち本研究で調査対象とするのは、いわゆる現行曲以外の、番外曲３００曲前後であるが、現行曲についても網羅し、同一水準の本文を提供することをめざす。

３．研究の方法

本研究においては、全国に散在する文庫・図書館・個人所蔵の謡本を博捜し、曲目索引を作成して『国書総目録』【能の本】以後に発見された謡曲作品・伝本を網羅的に補足し、上記３００曲の作品ごとに、伝存するテキストの系統関係を調査した上で、主要な系統の伝本を、一曲につき６本ずつ翻刻することを目指す。室町期成立の能のテキストを網羅的に翻刻・集成するような事業は今まで全く存在せず、本研究が能楽のみならず、能や謡曲に基礎を置く近世・近代前期の文芸研究、および国語学に与える影響は、きわめて大きなものとなろう。最終的な成果としては、『謡曲大成』（仮称）を刊行することを企図している。すでに現行曲２５０曲については、平成１７年度以降、ＣＤ－ＲＯＭ版テキストデータを索引用付録とする『現代謡曲集成』（仮題）の出版が決定している（勉誠出版）。『謡曲大成』は、それに続いて、番外曲までも網羅したものとなるであろう。

４．研究成果

研究成果の基本は、謡曲本文の翻刻である。それは実例を掲げれば、下記のようなものである。まず解題を付し、それに本文を２～6 種類記すものである。参考用として番外謡〈菅丞相〉の内、１本分の翻刻のみを掲げる。

〇観世宗節筆平仮名書大本「菅丞相」（観世文庫）

かんせうしやう（題簽）

［名ノリ］〈ワキ〉これはひえいさんゑんりやく寺の座主ほつ正坊の僧正とはわか事也。さても菅丞相はしへいのおとゝのさむそうに依てつくし安楽寺になかされ給いて候然者おん念のいたる所か御門夜な＋＋こなふありされは大やけより御きたうのことを被仰候間このたひは（１）五たんの法を行候

［サシ］〈サシ声〉夫我山は是王城のきもんを守り。悪魔をはらふのみならす。一仏せうの峯と申は。〈下〉伝聞鷲のみやまをかたとれり。又天台山と号するは。したんの四めいのほらをうつせり

［上ゲ歌］〈上〉されは仏法王法の。＋＋しんそくの利法たゝしくて。内外を知るも明けき御法の花も時をえて。けにくけちうの三体も仏法守（２）権の例地かな＋＋

[サシ]〈サシ〉〈ゝテ〉＼家を放て三四月。落る涙は百千江。万事は皆夢のことし。うつゝと見るも定なき。有無のさかい善悪の二。そのしきせつをみるにさたまらす。うつりやすきは旅宿也

［掛ケ合］〈カゝル〉＼＊ふしきやな観念きやう（３）の眼（４）の前には。一物更にくもらさるに。けしたる人のみえ給ふは。外道へんけのきほいやらんと。心をすます斗なり・　＼うたてやな御心こそかはる共見みえ申しその姿を忘給ふは情なし。夢中の対面申さむ為に。せう

しやう是まて参たり〈色〉＼そもせうしやうの御為に。何しに心のかはるへきさりなから。姿はそれにてましませ共。ひんはつ更にひきかへて＊まゆにも霜の翁とは何しにならせ給ふらん・　＼思ひのあれは一夜にもしらかと成は理也。とかなき身なれはさり共と。おもひ思ひしかいもなく。時剋うつさす追立の。官人とくとのせめをうけて　＼＊さぞな思ひもすか原や・＼伏見の里の夜の間をも　＼＊おそしやとくとのせめをうけて　＼思ひをなにと　＼ゆふつけの・

［上ゲ歌］〈上同〉なけはこそ別もうけれ鳥の音の。＋＋。きこえぬ里の。暁もかなと詠せし思ひをいつか忘れん。いつく共。いさしらぬひのつくし路に流し置れてうかりつる。其官人も帰るきはゝ。名残おしくもおもひねの。一夜のうちに白はつの。面影もかはるなりみみえ申もはつかしや

［誘イゼリフ］＼尚々はいしよにての御事共委（５）御物かたり候へ

［クリ］〈上〉けにや君かすむ宿の梢を行＋＋も。かくるゝまてに帰りみそする。露となりにし身の行衛かな

［サシ］〈指声〉然にさんしん国を乱し。とふは家を破るとは。身の上成けることはりかな。身にはいかなる罪咎を。思はさりしに情なく勅諚しきりに成下り。遠流のせめを蒙て。思はさりしに遠行の。日数（６）の末も知ぬひの。つくしのはてに捨置れて浮年月をすこしつる。思ひのはてはあさましや

［クセ］〈クセ下〉けふと過あす共知ぬ日数なから。命のまゝに残りきて。何まつことのあらはこそ。たよりもあるへけれなくさみとては都を思ひ忘ぬ斗也。され共年月の日数はうつるならひとて。またれぬ春もいそかぬ秋も。うつりて光いん（７）を送る月日はかり也。只明暮はふるさとの。軒のしのふのしのはしく。思ひわすれぬたよりにも。東風吹は匂ひおこせよ梅の花。あるしはなくと世中の。花もの云ならはこと伝もなとかなかるへき　〈上〉世中の。憂をならいと云人や。　いとはしとての心なる。いとへたゝいとふへきはおにこもる共いふなれは。何ゆへのうらみにや人をうしなふ心そやよしや思へは是とても。只先の世のむくひの。なしたるとか（８）のゆへなれは。うらむましやうらみても。いんくわはのかるましつみこそかなしかりけれ

［問答］　＼いかに僧正に申へき事の候　＼何事にて候そ　＼我さんしんの誠天道にこたへ。御門をなやまし申へし。御なふしきりに及ふならは。定て勅使立へき也参内なくはかはねの跡の。御心さしと思ふへし　＼御心やすくおほしめせ。たとひ勅使有とても。一二度までは参すまし。重ての勅使いかならん　＼たとひ勅使は重る（９）参内なきこそかんよふなれ　＼王地にすめる身のならひ勅使三度に及ふならは。いかてか参内申さらん　＼さては師たんの御ちきりも。かはらせ給ふか情なし。誠に参内有ならは。八万四千のくわらいじん。さきに追立丞相か。きとくを知せ申さんと

［歌］〈上同〉菅丞相の御けしき俄に色をへんしつゝ。ゐたけたかに成給ひて。さもあれ僧正よ御さんたひは情なしと。いかりおとらせ給ふかとみのけもよたつはかりなり。おりふし御まへにさくろをおかれたりけるをおつ取くちにふくんてはら＋＋＋＋（１０）とかみくたき。つまとにくわつとはき（１１）かけ。くわゑんと成てもへあかるほのおにまきれてうせにけり＋＋

［一セイ］〈一声〉＼朝日かけ。めくるなかへや小車の。とふさへ遅き（１２）心かな

［□］〈サシ〉さても此たひほつ正坊。御門の御なふしきりにて。勅に応して参内の。車をおそしととはせけり

［上ゲ歌］〈上哥〉けにや十善万乗の。＋＋。御かけもあつき此御代に。何のさはりか有へき仏法もさかへ王法の。君のいくわうもなをたかき。時にあたりて世を守る。しるしの道もたゝし（１３）しや【返】

［掛ケ合］〈指コトカヽル〉＼＊不思議やなにわかに清天かきくもり。かも川白河ひとつに成て越へきやうこそなかりけれ・〈ワキ〉＼其時僧正（１４）車のみすを高くあけさせよくみれは。波にはあらて丞相の。其恩念の荒みさき。ほこさきをそろへ河波に。立ふさかりてみえたるそや

［中ノリ地］〈上同〉ふしきやな河波の。＋＋。をとは山河にひゝきつゝ大地神のことくにて。太こをならしどうをつきて。悪ま外道の荒みさきは川波にふさかり拘水をたてゝとはせけり

［一セイ］〈入ハ一声〉雲の波。早くみなきるかは波に。なる神しんとう。おひたゝし

［ノリ地］〈上同〉ふしきやあれみよしら河の＋＋〈シテ〉＼面はさなから紅になかれ〈地〉＼こうはをたゝみ。ほこさきをそろうるはらいの中に。かんせうしやうかとあらはれたまふ面はさなから鬼神の如く。あたりをはらつておそろしや

［ノリ地］〈上〉其時僧正声をあけ。＋＋。せんしの参内いかてかとまらん只やりかけよ。御車牛飼。供奉の人々河波に向へは　＼くわらいしんはいかり　＼何かは渡さんと乱ちり立向ひ

ほこてつちやうにておいあけ給へは所は白河の東の岸の。川波はるかにをひ（１５）返す

［ノリ地］〈下●〉かくて時剋もうつりしかは。〈同〉＋＋僧正なかるる水に向ひてことはり給ふそあはれなる。かりそめなから師正の恐。又は王法の宣旨はいかに。はやのき給へとくとき給へは　〈下〉＼かんせうしやうも一旦のうらみ。　〈上〉さらは御車を大内に付んとせうしやう手つからなかへにすかり所は白河。又は賀茂川のよこきる波間を露程もぬらさす。大内の東門に御くるま引付。はや是まてそ。暇乞。そうしやうもくるまよりおりさせ給へはけに有かたや。御門も御へいゆう天下太平国土安穏。今の世まても天満天神とあらはれ給ふそありかたき

注
（１）「此」を墨滅。
（２）「守」を同筆で行間に補入。
（３）「諸行」を墨滅し「きやう」と同筆で補入。
（４）ゴマ点により「まなこ」であろう。
（５）「委」字難読。
（６）「月日」の「月」を墨滅し、同筆で「数」を補入。
（７）「いん」は原文一字（「蔭」か）を墨滅して「いん」と同筆傍書。
（８）「か」同筆補入。
（９）「共」脱か。
（１０）「＋＋」同筆補入。
（１１）「ほのおに」まで。原文「かくる赤きさくろはたちまちに」を墨滅して同筆傍書。
（１２）「遅」を墨滅。「遅き」と同筆で訂正傍書。
（１３）「あまね」を墨滅。「たゝし」と同筆で訂正傍書。
（１４）「僧」を同筆補入。
（１５）「をひ」を同筆補入。
（竹本作業分より抽出）

これらの作業はきわめて膨大な資料調査を前提としており、その中から６本を選び、系統関係を明示する解題を付して、独自の凡例に基づき翻刻するというもので、1曲ごとに非常に時間が掛かった。とくに番外曲は新出の謡本が多く、難渋した。そのため今回の研究ではカ行までをほぼ終えることで、以後の分は今後の課題となった。これをどうするかは別途考える。なお成果概要で述べた様に、今回の成果を踏まえた出版事業が一部開始されており、それ自体は数年の内に完成予定ながら、『謡曲大成』全体の完成は、かなりの長期にわたり、世代を越えて継続すべき作業となることが確実視される。

研究分担者の研究成果でとくに注目すべきは、概要に紹介した大谷節子『世阿弥の中世』の受賞が第一である。それに次ぐものとして、落合博志による飯田市立図書館所蔵の金春喜勝奥書謡本二十冊百番の発見・紹介である。金春喜勝は禅竹から数えて五代目の金春大夫で、天正十一年七十四歳で没した。喜勝の謡本は、これまで五十曲ほどの存在が知られている。喜勝よりも後の時代の別系下掛謡本である車屋本に次ぐ残存例を誇っていたのが喜勝本であった。今回の発見によってそれが倍増したことの意味は大きい。良質の古写本が大量に出現したことで、謡曲の本文研究が大影響を受けることは必至といえよう。研究分担者で本資料の発見者の落合博志氏によれば、本謡本はその奥書花押の様態から天正九年十二月以前の執筆であることが知られる由であり、本来は筒井順慶の所蔵本であったという。このように大量夫でしかも来歴が明確な古写本は謡本においてはきわめて珍しい。本書の本文は、その全文を翻刻すべきなのであるが、皮肉なことに発見が研究年度の最後の年末近くであったために、年度内開催の学会にその概要報告を発表することしかできなかった。しかしながら、このような研究計画があったればこそ、全国の網羅的調査の過程でこうした貴重本が発見されたわけである。

この外、本研究の波及効果として、全国に在学する多数の大学院生が、本研究の基礎データ作成に協力・参画したことがある。本研究用の資料を委託し、集積する法政大学能楽研究所に全国から大学院生が参集し、謡本の写本・版本の解読作業に従事したことは、能を専攻する大学院生同士のネットワーク構築に役立った。また能楽研究所の研究センターとしての役割も従来に増して大きなものとなった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３４件）

<u>１　表きよし</u>
「江戸時代の庶民と能楽」、『能と狂言』７号　PP14―21　2009 年　能楽学会　査読有
<u>２　小林健二</u>
「能《大江山》と『大江山絵詞』」、『国文学研究資料館紀要』35　PP55―80　2009 年　査読有
<u>３　石井倫子</u>
「文化現象としての源氏能」、『観世』第 75 巻第 5 号　PP26―34　2008 年　檜書店　査読無
<u>４　石井倫子</u>
「変容する落葉宮--〈陀羅尼落葉〉試論--」、『国語と国文学』第 85 巻第 3 号　PP.27―40　2008

年　査読有
5　大谷節子
「京観世岩井家の明和本批判」、『能と狂言』6 PP52～68　2008 年　能楽学会　査読有
6　表きよし
「作品研究〈鉢木〉―上演記録をめぐって」、『観世』第 75 巻 11 号　PP24―31　2008 年　檜書店　査読無
7　竹本幹夫
「On the principle of jo-ha-kyu in contemporary no theatre」,『NO Theatre Transversal』 PP69―77　2008 年　トリア大学（ドイツ）　査読無
8　竹本幹夫
「室町時代の能舞台」、『能と狂言』6　PP46―51 2008 年　能楽学会　査読無
9　西村聡
「〈綾鼓〉研究の現在ー「元雅新作」は〈恋重荷〉を超えたかー」、『金沢大学文学部論集言語・文学篇』28 号, PP37―50　2008 年　査読有
10　三宅晶子
「世阿弥の能楽論と死生観―世阿弥と元雅―」、『国文学　解釈と鑑賞』73 巻 3 号　PP126―133　至文堂　2008 年　査読無
11　三宅晶子
「年預の演じた翁復元に関する考察」、『演劇博物館グローバル COE 紀要　演劇映像学 2007』第 3 集　PP1－20　2008 年　査読無
12　三宅晶子
「世阿弥は『源氏物語』を読んでいたか―〈浮舟〉〈頼政〉〈班女〉を検討する」、『観世』75 巻 6 号　PP26－34　2008 年檜書店　査読無
13　Reiko YAMANAKA,
“The Tale of Genji and the development of female-spirit nō plays,” The Tale of Genji in Japan and The World：Social Imaginary, Media and Cultural Production, PP.81-100 2008 年、査読有
14　稲田秀雄
「狂言「煎物」考」、『山口県立大学国際文化学部紀要』13　PP13～25　2007 年　査読有
15　落合博志
「多武峰八講猿楽の資料その他」、『能と狂言』5 PP104～107　2007 年能楽学会　査読無
16　落合博志
「能と和歌―《姨捨》と姨捨山の和歌について」、『解釈と鑑賞』912　PP155 ～ 163　2007 年至文堂　査読無
17　落合博志
「現存の謡本と謡曲詞章の系統（続）―諸流諸本の異同」、共編：落合博志 武井協三 相田満 入口敦志 江戸英雄 加藤昌嘉 中村康夫 松本智子 山下則子　『本文共有化の研究』　PP2 ～ 27 2007 年　国文学研究資料館　査読無
18　樹下文隆
「作品研究《絵馬》」、『観世』74-2　PP25―34 2007 年　檜書店　査読無
19　小林健二
「近世芸能における鈴木三郎異伝の展開―能・狂言、山伏神楽・番楽―」、『大阪大谷国文』37 PP93―106　2007 年　査読有
20　竹本幹夫
「謡曲調の文体」、『江戸文学』37　PP23―31 2007 年　ぺりかん社　査読無
21　西村聡
「〈葵上〉注釈余説」、『金沢大学文学部論集言語・文学篇』27 号, PP1―14　2007 年　査読有
22　松岡心平
「世阿弥の身体論―漢文で書くこと」、『古典日本語の世界』　PP155―183　2007 年　査読無
23　山中玲子
「〈綾鼓〉の古風と新風―〈綾の大鼓〉の面影を探る―」、『文学』8 巻 5 号 PP77～86 2007 年　岩波書店　査読有
24　山中玲子
「能〈求塚〉の虚構」、『文学』8 巻 1 号 PP145～156　2007 年　岩波書店　査読有
25　天野文雄
「《花筐》にみる「物語」の創造」、『説話論集第十五集　芸能と説話』　PP97―132　2006 年　査読無
26　天野文雄
「「主題」からみた源氏物の能概観」、『源氏物語研究の現在（講座源氏物語研究）』1　PP192―208　2006 年　査読無
27　稲田秀雄
「狂言嫁取り物の展開と説話世界」、『説話論集第十五集　芸能と説話』　PP209～244　2006 年　査読無
28　大谷節子
この世で一番長い橋――能「長柄の橋」考――」、『説話論集第十五集　芸能と説話』　PP135～174　2006 年　清文堂　査読無
29　樹下文隆
「毛利家・萩藩旧蔵典籍目録稿（3）―『麻布大御納戸御書物目録』」、『県立広島大学人間文化学部紀要』1　PP97―112　2006 年　査読有
30　西村聡
「近代〈安宅〉論議と地域伝承史―「鳴るは滝」名所化への視線―」、『金沢大学文学部論集言語・文学篇第』26 号　PP1―12　2006 年　査読有
31　松岡心平
「身体・芸能―世阿弥以前、それ以後　芸能の身体の改革者としての世阿弥」、『中世文学研究

は日本文化を解明できるか』　PP208－217 2006年　中世文学会　査読無
32　小林健二
「『平家物語』以後の文覚・六代譚―能とお伽草子―」、『海王宮―壇之浦と平家物語』　PP342―361　三弥井書店　2005年　査読無
33　樹下文隆
「謡曲《玉井》考」、『広島女子大国文』20　PP41―54　2005年　査読有
34　松岡心平
「源氏物語を読む金春禅竹」、『ＺＥＡＭＩ―中世の芸術と文化』3　PP89―102　2005年　査読無

〔学会発表〕（計　３件）
１　落合博志
「飯田市立図書館蔵金春喜勝節付百番謡本について」
能楽学会大会（2009年3月22日早稲田大学）

２　三宅晶子
「夢幻能再考」
能楽学会大会（2009年3月22日早稲田大学）

３　竹本幹夫
「猿楽演出与舞台」
東方戯劇与劇場国際研究集会（2008年10月19日山西師範大学戯曲文物研究所）

〔図書〕（計　２件）
１　大谷節子
『世阿弥の中世』PP1～348　2007年　岩波書店
２　天野文雄
『世阿弥がいた場所』　PP1―650　ぺりかん社 2007年

６．研究組織
(1)研究代表者
竹本　幹夫（TAKEMOTO　MIKIO）
早稲田大学文学学術院教授
研究者番号：90138181

(2)研究分担者
山中　玲子（YAMANAKA　REIKO）
法政大学能楽研究所教授
研究者番号：60240058

小林　健二（KOBAYASHI　KENJI）
国文学研究資料館教授
研究者番号：70141992

落合　博志（OCHIAI　HIROSHI）
国文学研究資料館准教授
研究者番号：50224259

大谷　節子（OOTANI　SETSUKO）
神戸女子大学文学部教授
研究者番号：90211797

(3)連携研究者
天野　文雄（AMANO　FUMIO）
大阪大学大学院文学研究科教授
研究者番号：90201293

石井　倫子（ISHII　TOMOKO）
日本女子大学文学部准教授
研究者番号：50328887

稲田　秀雄（INADA　HIDEO）
山口大学国際文化学部教授
研究者番号:80264969

表　きよし（OMOTE　KIYOSHI）
国士舘大学21世紀アジア学部教授
研究者番号:30214224

樹下　文隆（KINOSHITA　FUMITAKA）
県立広島大学人間文化学部教授
研究者番号:70195337

西村　聡（NISHIMURA　SATOSHI）
金沢大学人文科学部教授
研究者番号:00131269

松岡　心平（MATSUOKA　SHINPEI）
東京大学大学院総合文化研究科教授
研究者番号:70173812

三宅　晶子（MIYAKE　AKIKO）
横浜国立大学教育人間科学部教授
研究者番号:201819